

消火訓練や救護訓練などに婦人パワーが活躍

防災訓練に13万人が参加

9月1日の防災の日、県下一斉に防災訓練が行われました。

午前9時の警戒宣言発令と同時に、各地区の自主防災組織を中心に、市



(富士見台自主防の避難訓練)

民13万人が参加して活発な訓練を展開しました。特に平日ということで、主婦が、初期消火訓練や、応急救護訓練などに積極的に参加し、地震がいつ起きても対処できる訓練をしました。

一方今回の教訓として、各人が、正しい情報を知ってデマにまどわされない知識をもつことや、避難も自分達の地域の状況を判断して、まず火災などの2次災害を防ぐことの大切さをあらためて知らされました。

また訓練に参加したみなさんが、地震防災を自分の問題としてとらえてきたことが、より実戦のための訓練になりました。



(水防団による土のう積訓練)



(新浜)

グループ訪問 30

器械体操などを中心に

あじさいクラブ

赤のトレーニングズボンと白いTシャツ。いかにもスポーツウーマンといった感じの人達ばかり。

昭和53年度、市主催の婦人軽体操教室修了生が、主体となって発足。

現在、会員21人、平均年齢36歳のママさん軽体操クラブである。

毎週金曜日の午前中、勤労者体育

センターで柔軟体操・トリム体操・器械体操などを中心に行っている。

代表者の中村夏子さん(46歳)は、「美容と健康のために最高。また、精神的にも張りが出ます」と話していました。

